

公益財団法人京都伝統産業交流センター

第1 法人の概要

1 代表者

理事長 田中雅一

2 所在地

京都市左京区岡崎成勝寺町9番地の1 京都市勸業館内

3 電話番号

075-762-2670

4 ホームページアドレス

<http://kmtc.jp> (京都伝統産業ミュージアム)

5 設立年月日

昭和52年3月29日

6 基本財産

11,000千円 (うち本市出えん額 5,000千円, 出えん率 45.5%)

7 事業目的

伝統産業の啓発及び振興に関する事業を行い、地域経済の発展と生活文化の向上に寄与すること。

8 業務内容

- (1) 京都市勸業館常設展示場の展示事業
- (2) 伝統産業に関する振興及び啓発事業
- (3) 伝統産業製品の提供事業

9 所管部局

産業観光局クリエイティブ産業振興室 (TEL075-222-3337)

10 役員名等

(1) 理事長

田中雅一

(2) 副理事長

木村泰士

(3) 専務理事

早水督

(4) 理事

森俊次, 佐藤敬二, 雁瀬博, 細辻伊兵衛, 辻智之, 林史己, 舞鶴一雄, 森愛鐘, 池田泰久, 草木大 (産業観光局クリエイティブ産業振興室長)

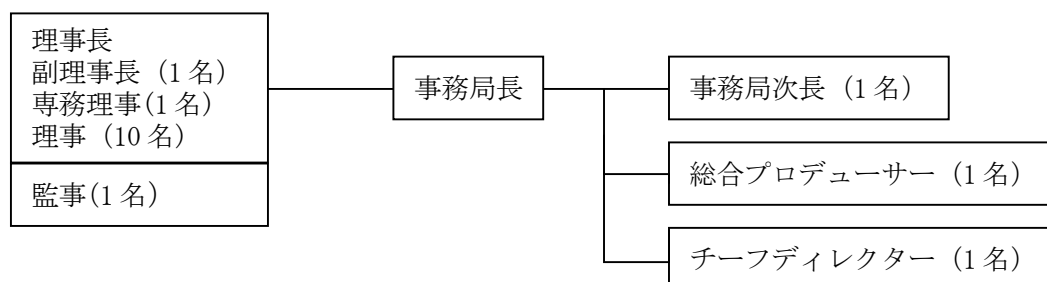
(5) 監事

松田聖

11 常勤職員数

9人 (うち本市派遣職員2人)

12 組織機構



第2 経営状況

1 令和元年度決算

(1) 事業報告

ア 京都市勧業館常設展示場の展示事業

京都市内の伝統産業について体系的に紹介する施設として設置された「京都伝統産業ふれあい館」(以下「ふれあい館」という。)の管理運営を行った。【年間来館者数：87,272人】

※ 令和元年10月1日から令和2年3月13日までリニューアル工事のため閉館し、令和2年3月14日に「京都伝統産業ミュージアム」としてリニューアルオープン。

(ア) 常設展示

- a 団体での見学者を対象とした解説【団体数：35団体、対象者数1,267人】
- b 展示品入替え【展示替回数：32回、入替品数：453点】
- c 展示場内放映用映像の制作

それまで展示場内で放映中の映像で取り上げられていなかった京足袋について、立命館大学映像学部と共同で新たに映像を制作した。

(イ) イベントルーム

関係団体との共催事業及び常設展示との相乗効果が期待できる展示会等を実施した。

【実施事業数：26事業】

(ウ) ギャラリー

当財団単独主催又は関連業界団体等との共催により企画展を開催した。

【実施事業数：5事業】

(エ) 図書室の運営【貸出書籍数：62冊】

(オ) 企画展の開催

開催期間	催事名
3/14~4/5	職人たちのマーチ -March of CRAFTSMEN-

(カ) 特別イベントの開催

「京まふ 2019」等ふれあい館周辺で開催された大規模イベントとの連動企画や企業等との共同企画を実施した。

イ 伝統産業に関する振興及び啓発事業

(ア) 伝統工芸品制作体験教室【体験者数：1,505人、体験料収入：1,687,836円】

(イ) 匠ふれあい事業

- a 常設展示場内における職人実演【実演職人延べ人数：379人】
- b 各種イベント等への職人派遣【イベント数：19、派遣職人延べ人数：66人】

(ウ) 工房訪問事業

京都を訪れる方に、より深く伝統産業の魅力を知ってもらい、伝統産業製品の購入につなげるため、工房訪問を希望する方と工房とを当財団がマッチングする仕組みを「京都工房コンシェルジュ」として構築し、平成28年度から本格実施している。

【利用人数：1,414人、利用件数410件】

(エ) ふれあい館サロン

職人と他業種の方との交流会を開催した。

【開催回数3回、参加職人延べ人数：18人】

(オ) 京ものユースコンペティション事業

若手職人の研鑽と露出の機会の創出を目的として実施した。

応募期間	令和元年7月1日(月)~9月30日(月)
応募者数	12名
受賞者	グランプリ1名、準グランプリ1名

(カ) 宿泊・商業施設等との共同企画の実施

ウ 伝統産業製品の提供事業

現代の人にとって敷居が高くなりがちな伝統産業製品を身近に感じてもらえるよう、オンラインショップ「京もの専門店みやび」を運営するほか、京都迎賓館や二条城のオリジナルグッズ、会議やイベントで出席者に配られる記念品として伝統産業製品の販売に取り組んだ。

【売上実績】 (単位：円)

種別	金額
オンラインショップ等	9,399,486
実店舗出展	213,092
常設展示・実演販売	2,050,413
記念品（特別注文）等	37,855,113
合計	49,518,104

エ 広報活動

- (ア) SNS 及び口コミサイトの活用
- (イ) 観光業界への情報提供
- (ウ) 他施設及び他団体との連携

(2) 財務諸表

貸借対照表

令和2年3月31日現在

(単位:千円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I. 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	32,302	32,873	△570
未収金	10,393	8,385	2,008
立替金	5	611	△606
前払費用	0	493	△493
流動資産合計	[42,700]	[42,362]	[338]
2. 固定資産			
(基本財産)			
定期預金	11,000	11,000	0
基本財産合計	(11,000)	(11,000)	(0)
(特定資産)			
退職給付引当資産	5,016	3,008	2,008
賞与積立資産	665	645	21
特定資産合計	(5,682)	(3,653)	(2,029)
(その他固定資産)			
出資金	5,000	5,000	0
什器備品	371	790	△420
電話加入権	80	80	0
ソフトウェア	99	151	△52
図書	8	8	0
その他固定資産合計	(5,558)	(6,029)	(△472)
固定資産合計	[22,239]	[20,682]	[1,557]
資産合計	64,939	63,044	1,896
II. 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	20,406	3,500	16,907
賞与引当金	665	645	21
預り金	5,993	5,360	633
仮受金	295	64	232
未払法人税等	70	905	△835
未払消費税等	680	1,663	△983
流動負債合計	[28,109]	[12,135]	[15,974]
2. 固定負債			
退職給付引当金	5,016	3,008	2,008
固定負債合計	[5,016]	[3,008]	[2,008]
負債合計	33,125	15,143	17,982
III. 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
京都市出えん金	5,000	5,000	0
指定正味財産合計	[5,000]	[5,000]	[0]
(うち基本財産への充当額)	(5,000)	(5,000)	(0)
2. 一般正味財産	26,814	42,900	
一般正味財産合計	[26,814]	[42,900]	[△16,086]
(うち基本財産への充当額)	(6,000)	(6,000)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(5,016)	(3,008)	(2,008)
正味財産合計	31,814	47,900	△16,086
負債及び正味財産合計	64,939	63,044	1,896

正味財産増減計算書

平成31年4月1日～令和2年3月31日

(単位:千円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I. 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	1	1	0
特定資産運用益	0	0	△0
事業収益	18,069	17,966	103
受取補助金等	58,179	55,331	2,848
雑収益	1,414	686	729
経常収益計	77,663	73,983	3,680
(2) 経常費用			
事業費	85,545	57,857	27,688
管理費	7,426	7,772	△346
経常費用計	92,970	65,628	27,342
当期経常増減額	△15,307	8,355	△23,662
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	779	0	779
当期経常外増減額	△779	0	△779
税引前一般正味財産増減額	△16,086	8,355	△24,441
法人税, 住民税及び事業税	0	905	△905
当期一般正味財産増減額	△16,086	7,450	△23,536
一般正味財産期首残高	42,900	35,451	7,450
一般正味財産期末残高	26,814	42,900	△16,086
II. 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	5,000	5,000	0
指定正味財産期末残高	5,000	5,000	0
III. 正味財産期末残高	31,814	47,900	△16,086

2 令和2年度事業計画

(1) 事業計画の概要

ア 京都市勧業館常設展示場（京都伝統産業ミュージアム）の展示事業

- (ア) 常設展示の管理運営（エントランス, 74CRAFTS WALL, 74CRAFTS EXTIBITION)
- (イ) 企画展示室における企画展の実施
- (ウ) MOCAD ギャラリーにおける展示会の開催
- (エ) マテリアルライブラリーの運営
- (オ) 特別イベントの開催

イ 伝統産業に関する振興及び啓発事業

- (ア) 伝統工芸品制作体験教室の開催
- (イ) 匠ふれあい事業
 - a 常設展示場内における職人実演
 - b 各種イベント等への職人派遣
- (ウ) 工房訪問事業「京都工房コンシェルジュ」の運営
- (エ) 京ものユースコンペティション事業

ウ 伝統産業製品の提供事業

オンラインショップ「京もの専門店みやび」を運営するほか、観光施設のオリジナルグッズ、会議やイベントで出席者に配られる記念品として伝統産業製品の販売に取り組む。

エ 広報活動

- (ア) SNS 及び口コミサイトの活用
- (イ) 観光業界への情報提供
- (ウ) 他施設及び他団体との連携

(2) 予算

正味財産増減予算書

令和2年4月1日～令和3年3月31日

(単位:千円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I. 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	0	0	0
特定資産運用益	0	0	0
事業収益	29,345	11,809	17,536
受取補助金等	69,753	56,440	13,313
雑収益	842	61	781
経常収益計	99,940	68,310	31,630
(2) 経常費用			
事業費	92,322	60,200	32,122
管理費	7,618	8,110	△492
経常費用計	99,940	68,310	31,630
当期経常増減額	0	0	0
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	0	0	0
一般正味財産期首残高	42,900	35,451	7,450
一般正味財産期末残高	42,900	35,451	7,450
II. 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	5,000	5,000	0
指定正味財産期末残高	5,000	5,000	0
III. 正味財産期末残高	47,900	40,451	7,450

(参考1) 財務状況の推移

(単位：千円)

		H29 (決算)	H30 (決算)	R1 (決算)	R2 (予算)
正味財産増減計算書	経常収益	71,189	73,983	77,663	99,940
	当期経常増減額	8,125	8,355	△15,307	0
	当期正味財産増減額	7,424	7,450	△16,086	0
貸借対照表	総資産	56,736	63,044	64,939	
	総負債	16,285	15,143	33,125	
	正味財産	40,451	47,901	31,814	

(参考2) 京都市からの補助金等

(単位：千円)

		H29 (決算)	H30 (決算)	R1 (決算)	R2 (予算)
委託料	京都伝統産業ふれあい館運営	24,000	24,000	24,000	
	京の「匠」ふれあい事業	3,500	4,000	4,879	
	京都伝統産業ふれあい館を核とした新たな伝統産業振興事業	20,000	19,798	19,500	
	「京ものユースコンペティション」に係る企画・運営業務	1,000	1,000	1,000	
補助金	京都市伝統産業振興事業補助金	5,932	6,533	7,800	6,909

第3 経営評価結果

1 所管局による経営状況の全般評価

財務面	<ul style="list-style-type: none"> リニューアル改修に伴う支出が膨らみ、当期正味財産増減額は赤字となったが一時的なものであり、自己資本比率や流動比率の数値からも財務面の安定性は評価できる。 また、オンラインショップにおいては、取扱商品がメディアで取り上げられたことなどから前年度比31.8%増加となり、積極的な取組が行われている。
事業面	<ul style="list-style-type: none"> リニューアルに伴う休館を実施するまでの期間(4月～9月)の来場者数は前年同期比9.0%増となっており、着実に来場者を伸ばしていたことをはじめ、伝統工芸品制作体験教室や団体の見学者も堅調に推移しており、大いに評価できる。

2 外郭団体総合調整会議による評価コメント

財務面	<ul style="list-style-type: none">・ 当期正味財産増減額が赤字に転じたが、リニューアル改修に伴う支出増の影響であり、一時的なものである。・ オンラインショップによる売上が目標を大幅に上回っており、評価できる。
事業面	<ul style="list-style-type: none">・ リニューアル改修に伴う休館前の来場者数が増加している点は評価できる。・ リニューアルオープンした施設を有効活用し、本市伝統産業の発信や振興に寄与してほしい。